

咸臨丸を支えた塩飽(しわく)水軍の操船技術力



丸亀市は香川県北西部の商工業都市。瀬戸内海に面しており、かつて水軍で名をはせた塩飽諸島の本島(ほんじま)や広島なども市域に含んでいる。丸亀の名は安土桃山時代に生駒氏が亀山に築城し、丸亀と名付けたのが始まり。また、古来より金刀比羅宮(金毘羅さん)の参道口として賑わっている。面積は64.59km²。人口は約11万人(2005年3月の合併より)。

塩飽諸島の中心である本島は塩飽水軍の本拠地でした。塩飽水軍は、豊臣秀吉の朝鮮出征で活躍。その功により朱印状を授かり、塩飽七島1250石を人名と称された650人の水夫達が統治しました。幕末に太平洋を渡った咸臨丸の乗組員として活躍したのも塩飽の人達です。島内には、信長や秀吉、家康からの朱印状や古文書も蔵するかつての塩飽水軍の政所、国の史跡である「塩飽勤番所」をはじめ「年寄の墓」、昔のままの集落が残る笠島には百数十年の風雪に耐えた家が今なお、海に生きた男たちの息吹きを伝えています。

丸亀市街の北に位置する塩飽(しわく)諸島の1つ、「本島」(ほんじま)は瀬戸大橋を間近に見られる非常に景色の良い場所で、戦国時代には塩飽水軍が活躍した場所。

畿内(近畿)に近かったこともあり織田信長はいち早く、この水軍を味方に付け、さらに豊臣秀吉、徳川家康も塩飽水軍を保護し、数々の戦役で活用していきます。

これに関連して本島を中心とする塩飽諸島は、江戸時代を通じて、水軍の末裔達が江戸幕府により自治を許されてきた極めて珍しい場所です。また、幕末になると再び水軍の操船技術が必要となり、咸臨丸が太平洋を横断してアメリカへ往復した際、水夫50人のうち35人が旧塩飽水軍出身者でした。



塩飽勤番所長屋門

1841(天保12)年築。

塩飽勤番所は、江戸時代に塩飽諸島全島を掌握した政庁で、4人の年寄たちが交代で執務していました。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の朱印状や古文書が保存されています。



織田信長朱印状

笠島地区(国の重要伝統的建造物群保存地区)

本島の北側に位置する笠島地区。ここはなまこ壁や格子窓が特徴的な、江戸時代、明治時代の古い街並みがある。ここはなまこ壁や格子窓が特徴的な、江戸時代、明治時代の古い街並みがある。ここはなまこ壁や格子窓が特徴的な、江戸時代、明治時代の古い街並みがある。ここはなまこ壁や格子窓が特徴的な、江戸時代、明治時代の古い街並みがある。

なお街並みは、水軍の根拠地である名残から東小路、マッチョ通り(町通りが転訛したもの)を中心としつつも、奥まで見渡せないような少し曲がった道路構成になっているのが特徴。

